

令和 4 年度 男女共同参画社会づくりのための意識調査

《 集計結果及び平成29年度調査との比較 》

1 調査の目的

男女共同参画に関する町民の意識の変化や課題を把握し、
第三次紫波町男女共同参画推進計画の基礎資料を得ることを目的とする。

2 調査方法と回収状況

- (1) 調査対象 紫波町在住の20歳以上の個人
- (2) 対象者数 2,000人（女性1,000人、男性1,000人）
- (3) 抽出方法 住民基本台帳を基に層化無作為抽出
- (4) 調査方法 郵送配布－郵送回収
- (5) 調査期間 令和 4 年12月～令和 5 年 1 月
- (6) 調査実施機関 紫波町役場企画課総合政策係
- (7) 回収状況

	標本数	有効回収数	有効回収率
総数	2,000	524	26.2%
女性	1,000	245	24.5%
男性	1,000	274	27.4%
LGBTQ・無回答	—	5	—

【参考】平成29年度 男女共同参画社会づくりのための意識調査

- (1) 調査対象 紫波町在住の20歳以上の個人
- (2) 対象者数 2,000人（女性1,000人、男性1,000人）
- (3) 抽出方法 住民基本台帳を基に層化無作為抽出
- (4) 調査方法 郵送配布－郵送回収
- (5) 調査期間 平成30年 2 月～平成30年 3 月
- (6) 調査実施機関 紫波町役場企画課協働広報室
- (7) 回収状況

	標本数	有効回収数	有効回収率
総数	2,000	694	34.7%
女性	1,000	416	41.6%
男性	1,000	278	27.8%

【1】分析編

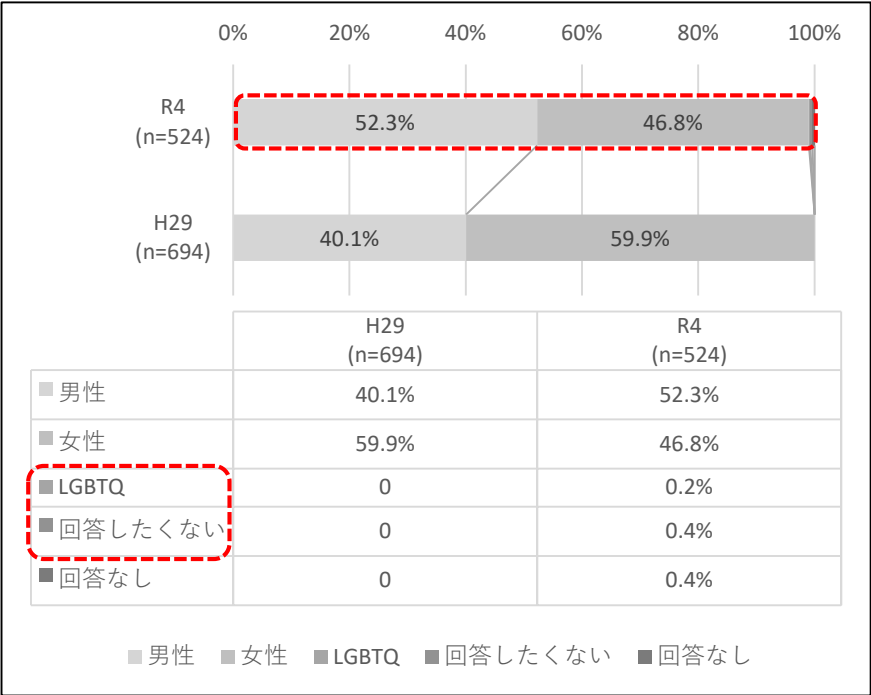
目次と概要

0. 回答者属性 P.3	
1. 家庭での役割分担 P.4-7	家庭内での立場は男女平等と回答する人が増加。また、性別固定役割に同感できないと回答する人も増加した。 家庭内の分担については子育て以外の家事における女性の負担が依然高い状況にある。
2. 子育て P.8-9	男性の子育てへの参画意識と、実際の参加割合が高まっている。 子育て支援方策は金銭的な負担を和らげるものが求められている。
3. 介護 P.10	施設での介護を希望する人が増加。一方で、「ケア役割は女性が担うもの」という認識が男女ともに根強い。
4. 健康 P.11-13	健診等を受診していない割合は男女ともに1割程度。 子宮頸がん・乳がん検診を受診していない女性は4～5割の結果に。必要性を感じないという声がある一方、小さな子どもを連れて行けないという声も見受けられた。
5. 就業・働きやすさ P.14-16	職場での待遇や働きやすさについては大幅に改善傾向。 離職や就業形態を変更した経験のある人への質問では、女性が結婚や出産を機に離職をしている割合が高いことが分かった。女性においては、ワークライフバランスの充実のほかに、退職後の再就職支援などが求められている。
6. 地域社会 P.17	多くの項目で改善傾向にみられるも、お茶入れや調理、子ども会の世話役などは女性が担っている割合が依然として高い。
7. 性的マイノリティ（LGBTQ） P.18-20	メディア等の報道により、認知度が上昇。「LGBTQ」という言葉を知らない人は1割という結果に。 理解促進には「社会制度の見直し」を求める声が多く、パートナーシップ制度の導入については約6割の人が必要と回答した。
8. 男女共同参画社会実現に向けて P.21-23	現状の達成度合いは、3割の人が「達成できている」という結果に。年代別では、40～60代で「達成できていない」と回答する人の割合が高い結果となった。 実現に向けて必要なことは「男性への家事育児への参画」が男女ともにトップであった。

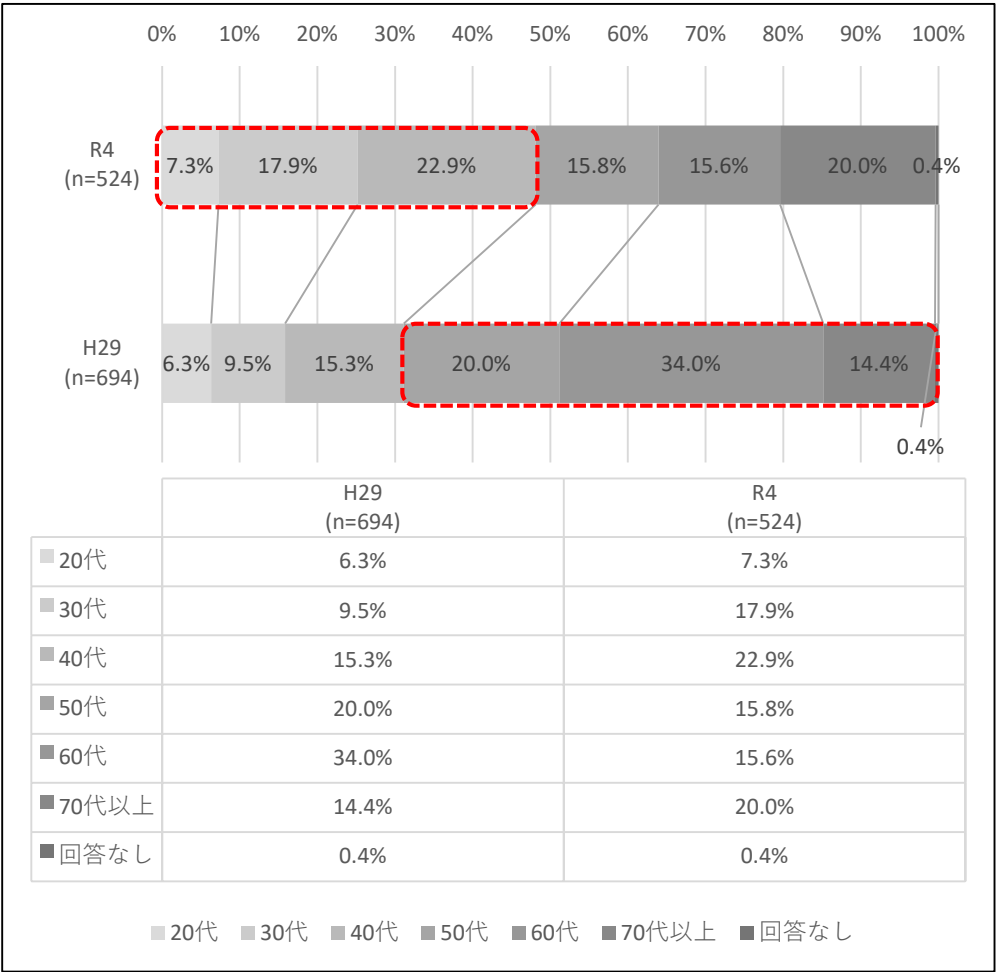
0. 回答者属性

性別には、今回調査から「LGBTQ」「回答したくない」の選択肢を追加。
また、回答後の性別・年代別人数が人口比率と近似するように送付数を調整したことにより、男女比が半々に。
前回調査では50代以上が7割を占めていたが、20代-40代の割合が増加した。

(1) 性別



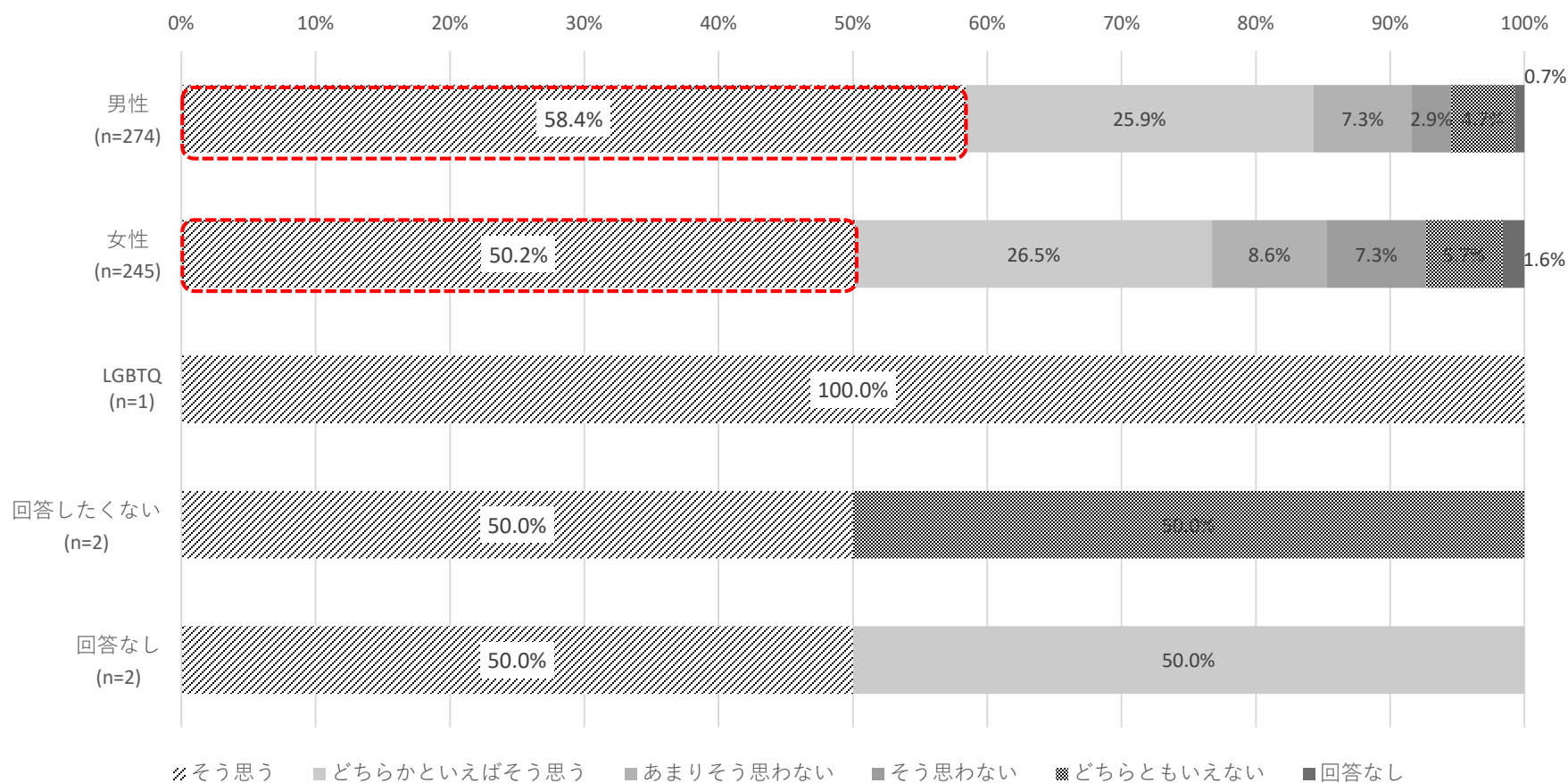
(2) 年代



1. 家庭での役割分担

男性・女性ともに半数以上が「配偶者・パートナーは対等な存在」と回答。

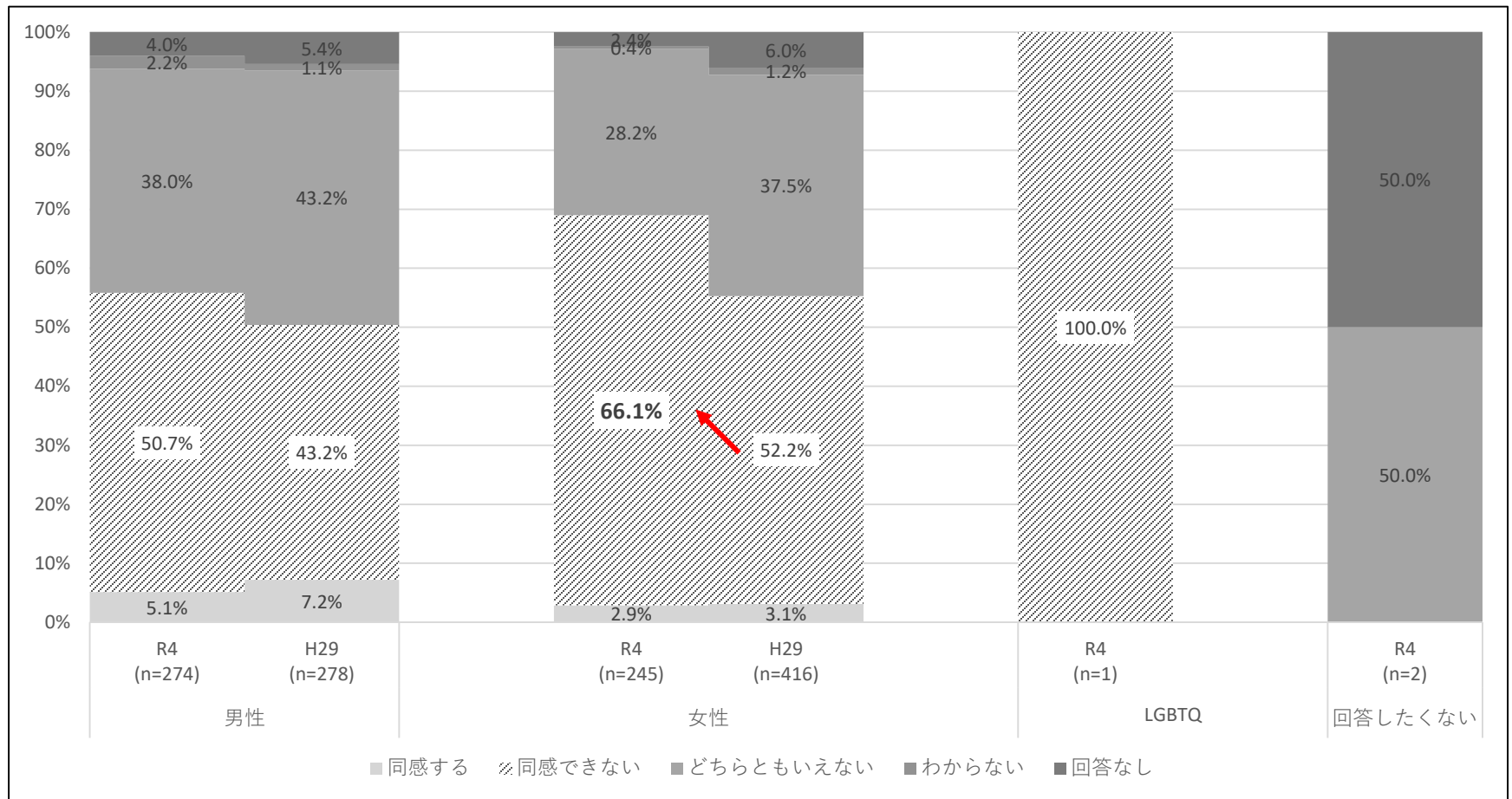
問3 家庭生活において、配偶者・パートナーは対等な存在だと思いますか。



1. 家庭での役割分担

性別固定役割について、男女ともに「同感できない」と回答した割合が増加。
とくに女性は13ポイントと大幅に増加した。

問1 「男は仕事、女は家庭」などと性別によって役割を固定する考え方を、あなたはどのように思いますか。

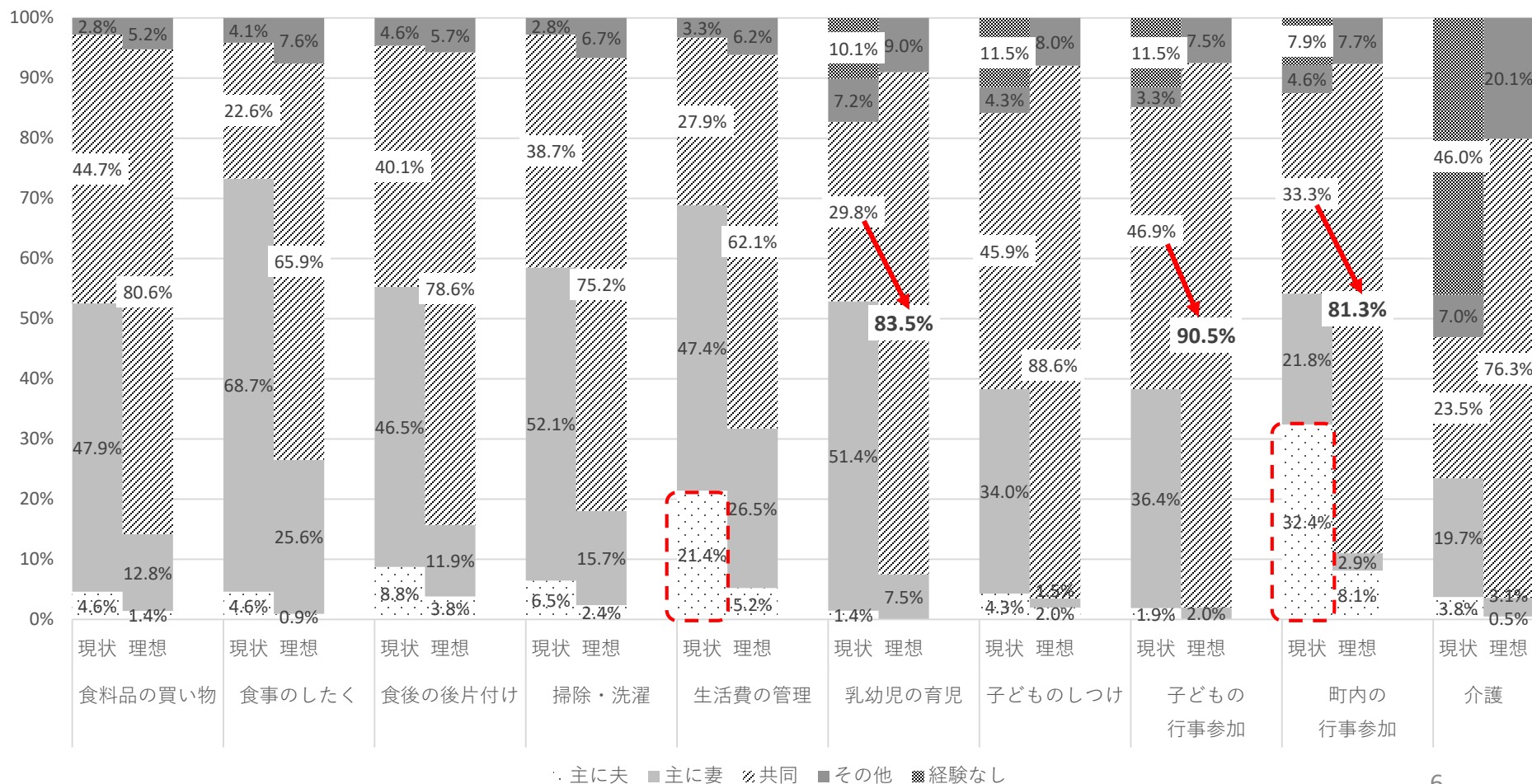


1. 家庭での役割分担

男性が主に担当している割合が高いのは「町内行事参加」、「生活費の管理」。“共同”を理想とする項目の中で、現状とのギャップが特に大きいのは「育児」「子どもの行事参加」「町内行事参加」。子育てに積極的に関わりたいと考える男性が多いことが読み取れる。

問2 (配偶者・パートナーと同居されている方) あなたの家庭では、家庭内の役割分担をどのようにしていますか。

男性 n=274

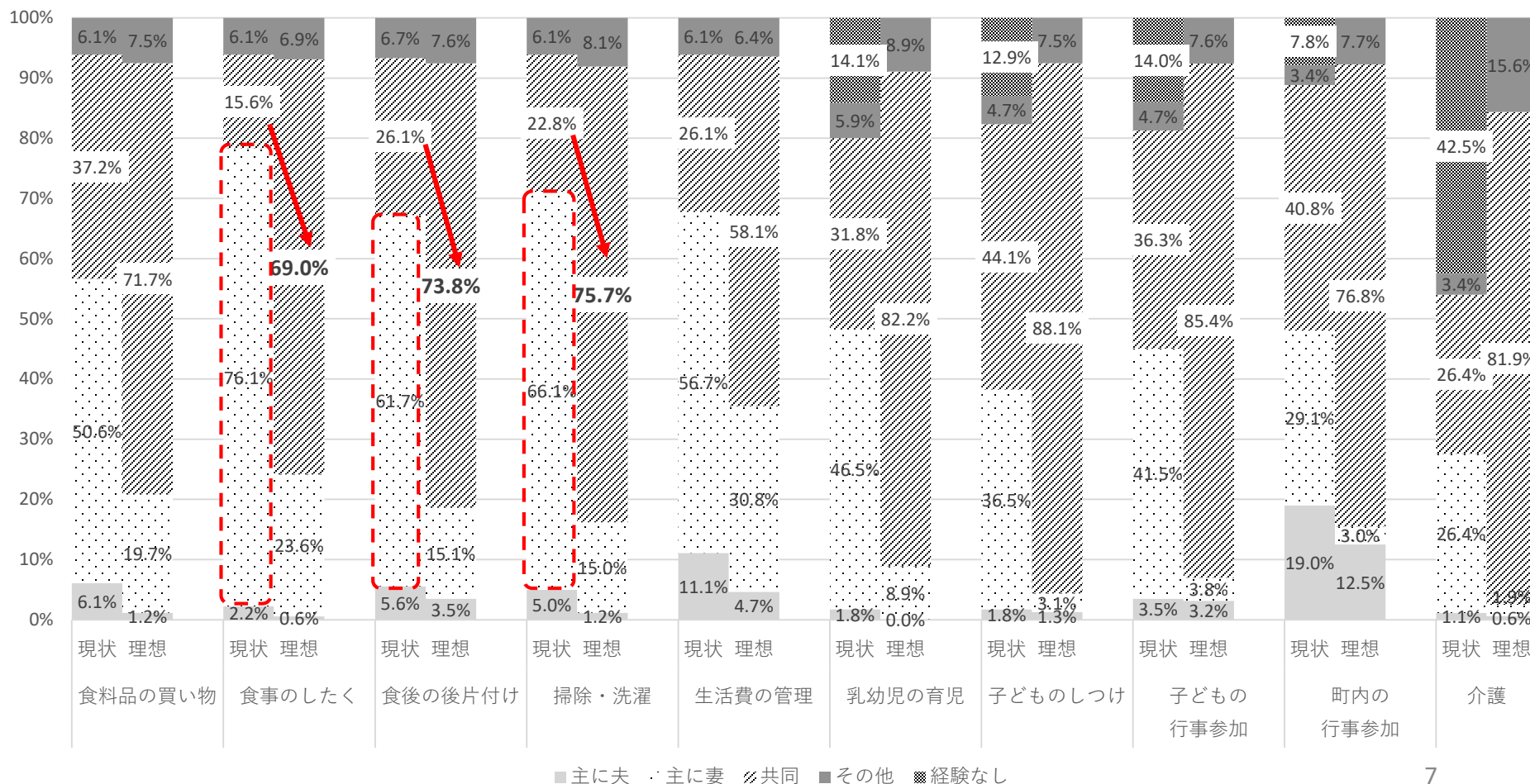


1. 家庭での役割分担

女性が主に担当している割合が高いのは「食事のしたく」「掃除・洗濯」「食後の後片付け」。上記3つの項目は、理想で“共同”と回答する割合も高く、現実とのギャップが大きい。日常で負担が大きいために分担したいと考えている女性が多いことが読み取れる。

問2 (配偶者・パートナーと同居されている方) あなたの家庭では、家庭内の役割分担をどのようにしていますか。

女性 n=245

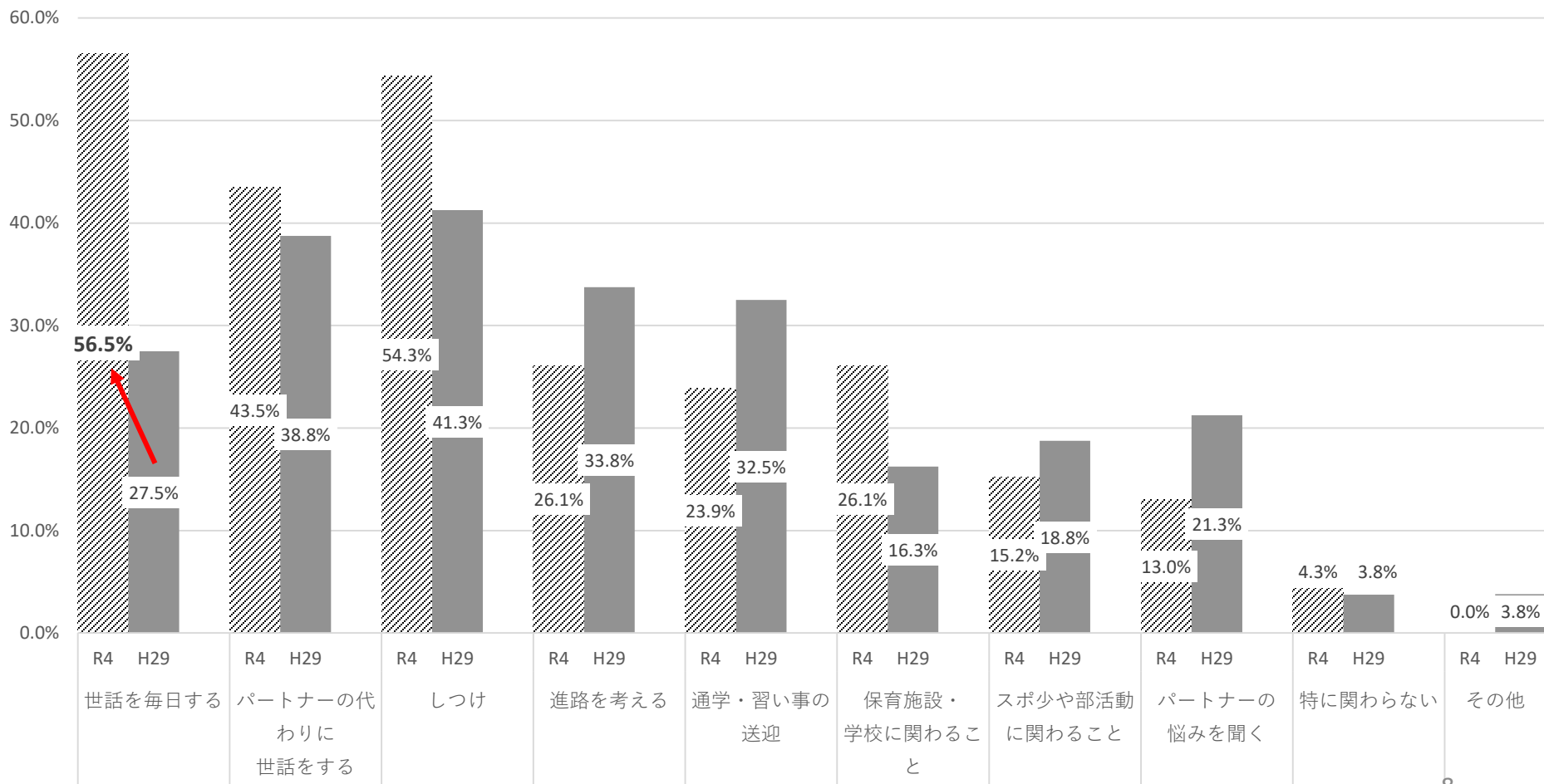


2. 子育て

女性からみた、パートナーの子育ての関わりについて、「世話を毎日する」の回答割合が29ポイント上昇。
男性パートナーによる育児参加が浸透していることが伺える。

問6-2 (子育て中の方) あなたの配偶者・パートナーは子育てにどのように関わっていますか。(複数回答)

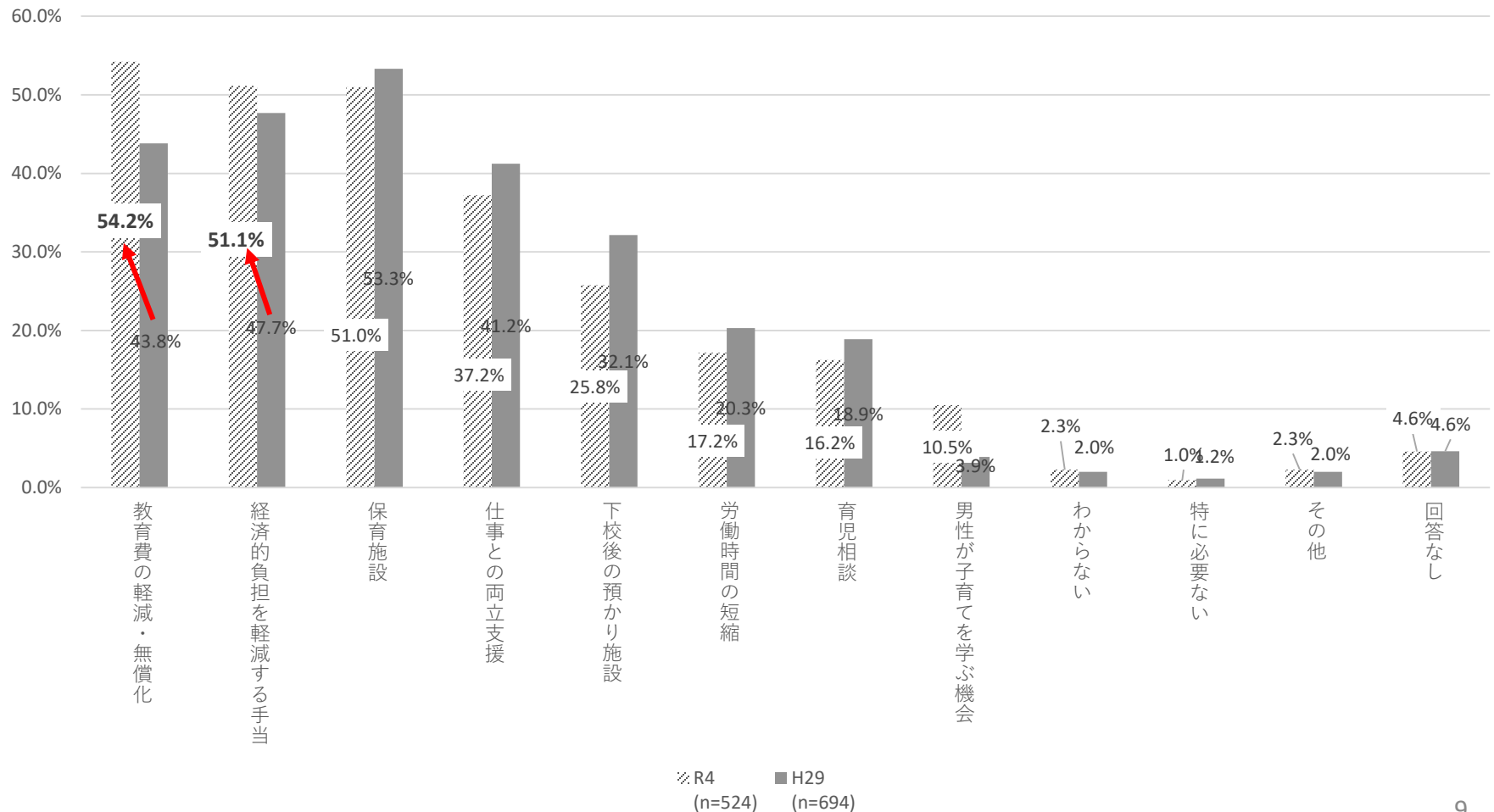
女性 n=46 (R4)、80 (H29)



2. 子育て

物価高騰を受けてか、金銭面での支援・負担軽減策のニーズが高まっている。一方、保育施設や仕事との両立支援の割合は依然高いものの、前回調査と比較すると改善している。

問7 子育て支援策としてどのようなことが必要だと思いますか。

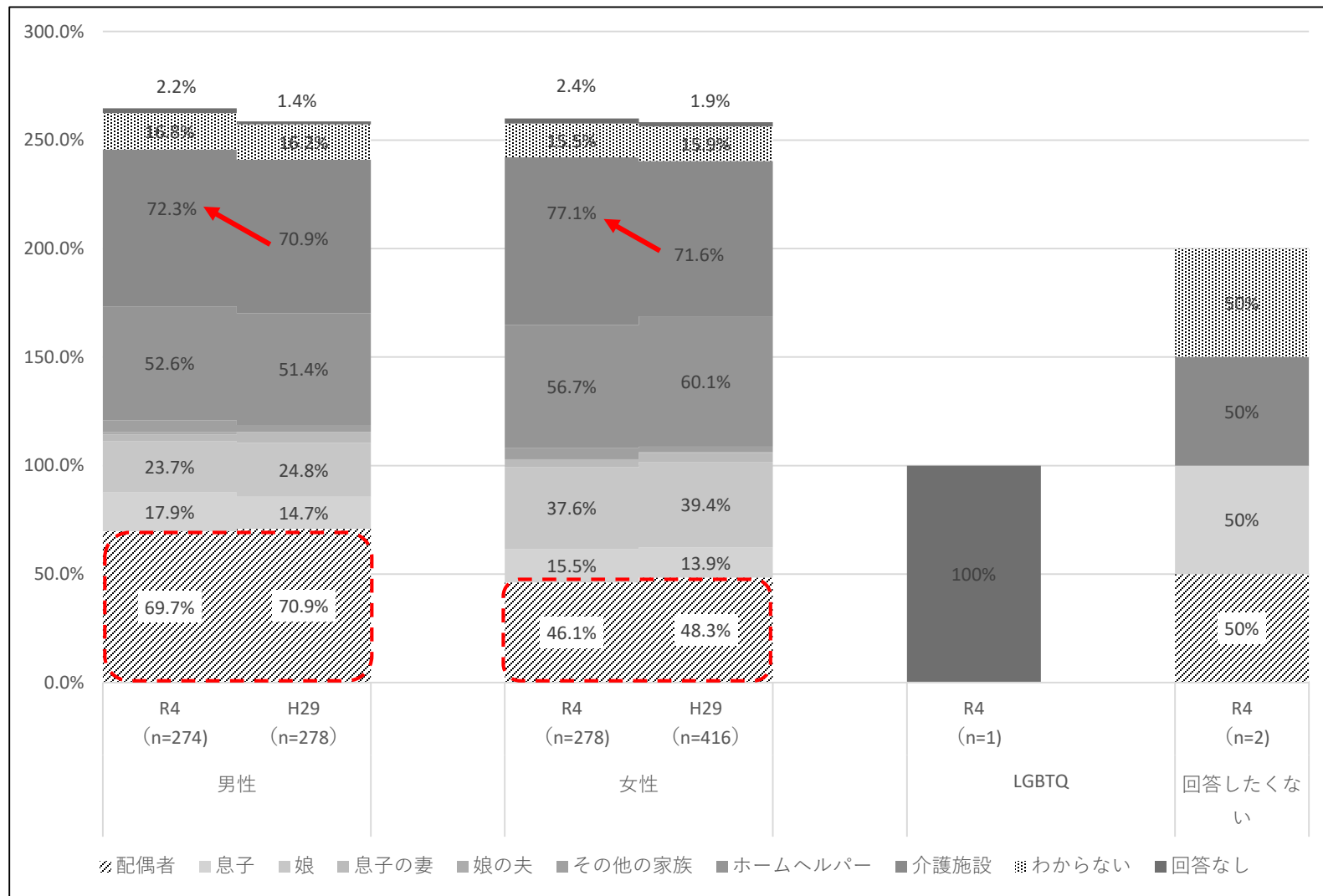


3. 介護

男性・女性ともに「施設での介護」を希望する人が増加した。

「配偶者による介護」を希望した男性は約7割であったのに対して、女性は約5割と回答。ケア役割を引き受けるのは女性パートナーであるという意識が男女ともに根付いていることが読み取れる。

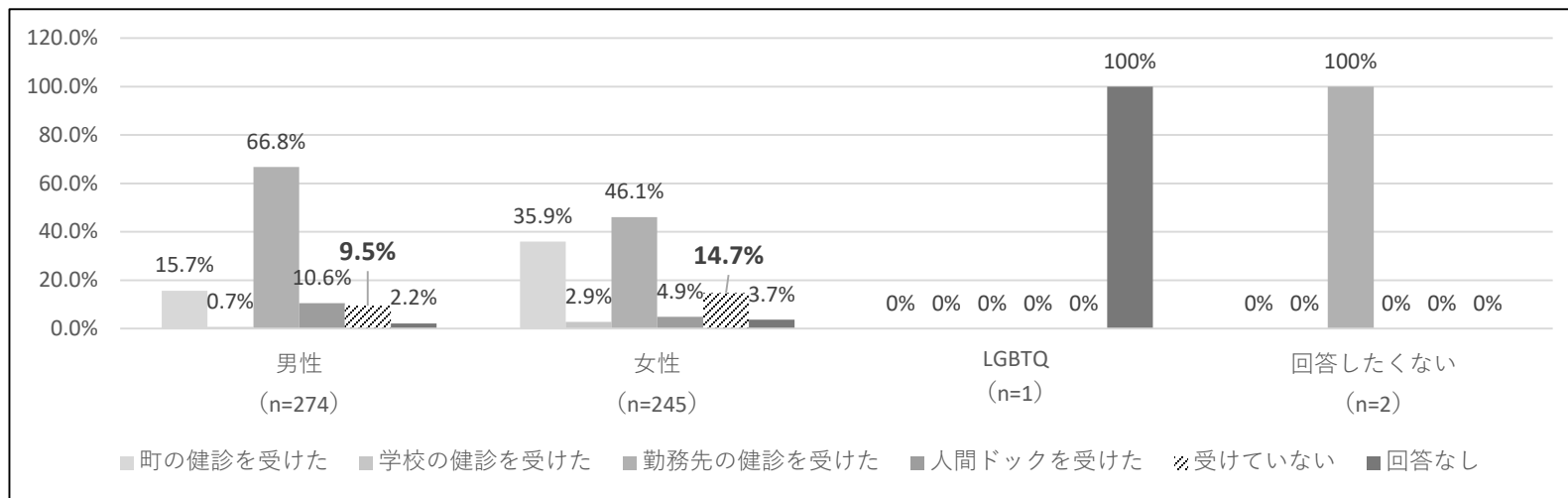
問8 介護が必要になった場合、だれに介護してもらいたいですか。（複数選択）



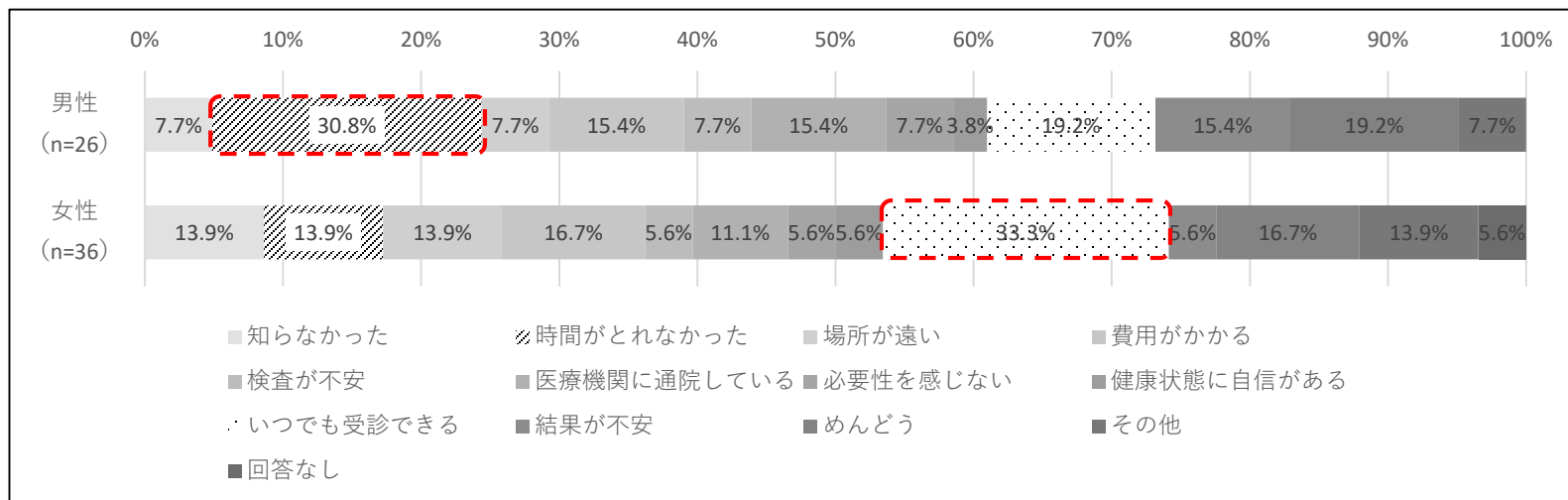
4. 健康

過去1年間に健診等を受診していない人は、女性のほうが5.2ポイント高い結果に。
受診しない理由は、男性が「忙しい」、女性が「いつでも医療機関を受診できるから」がトップ。

問10 あなたは過去1年間に健診等を受診しましたか。（複数選択）



問11 （健診等を受診していない方）受診しない理由は何ですか。（複数選択）

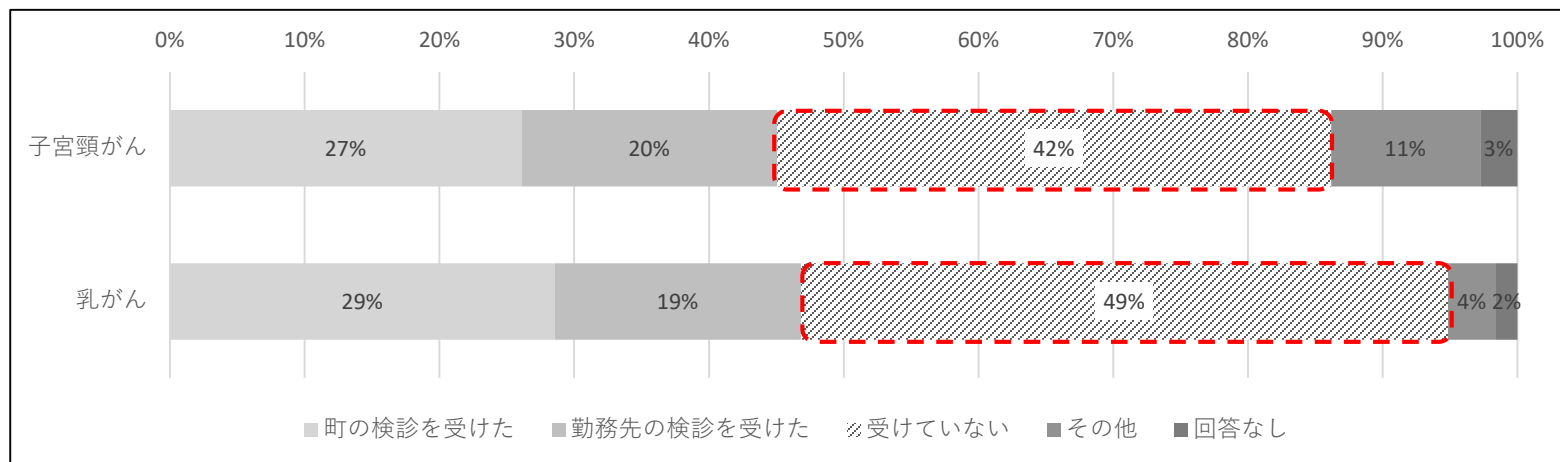


4. 健康

女性検診未受診の割合は子宮頸がんが約4割、乳がんが5割という結果に。
受診しない理由は、「いつでも医療機関を受診できるから」がトップ。次いで割合が高い「その他（自由記述）」の内容は次頁で紹介。

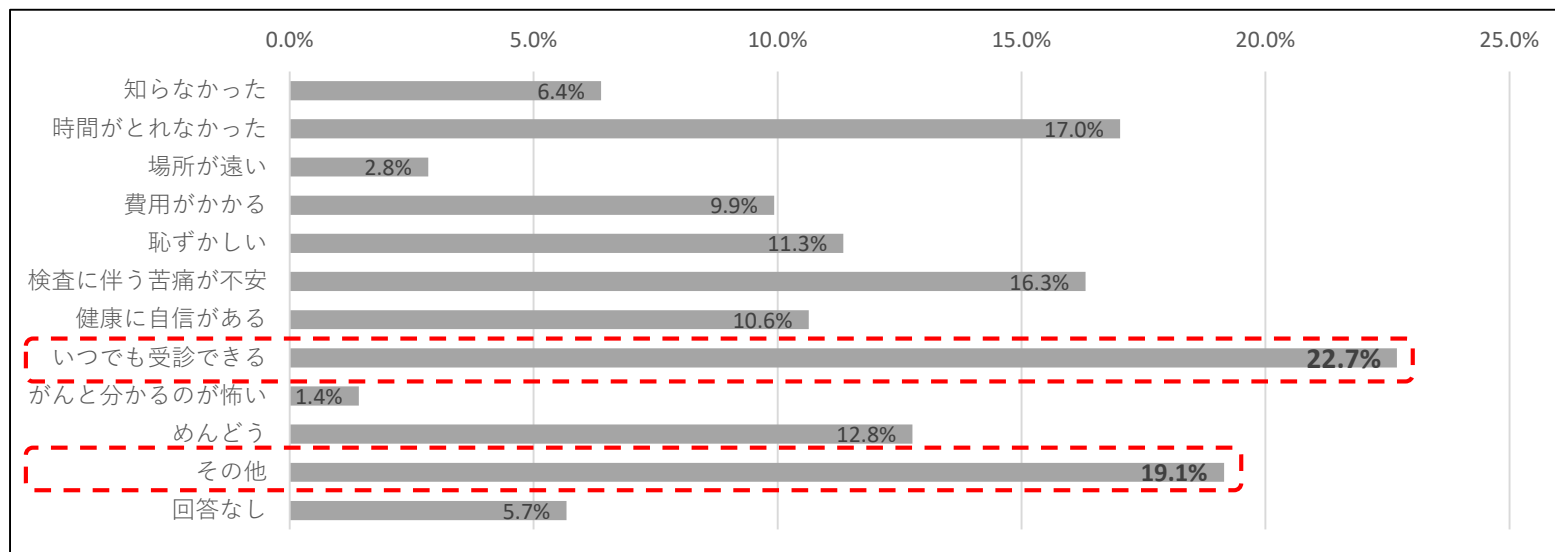
問12 （女性の方）過去2年間に、以下の検診を受けましたか。（複数選択）

n= 245



問13 （受診していない方）子宮頸がん・乳がん検診を受診しない理由はなんですか。（複数選択）

n= 141



4. 健康

自由記入欄では、検診に必要性を感じてないという回答が多く見られた。
一方、子どもを連れていきにくいため受診を控えたと回答する人も。託児などの配慮が求められている。

問13 （受診していない方）子宮頸がん・乳がん検診を受診しない理由はなんですか。（複数選択）

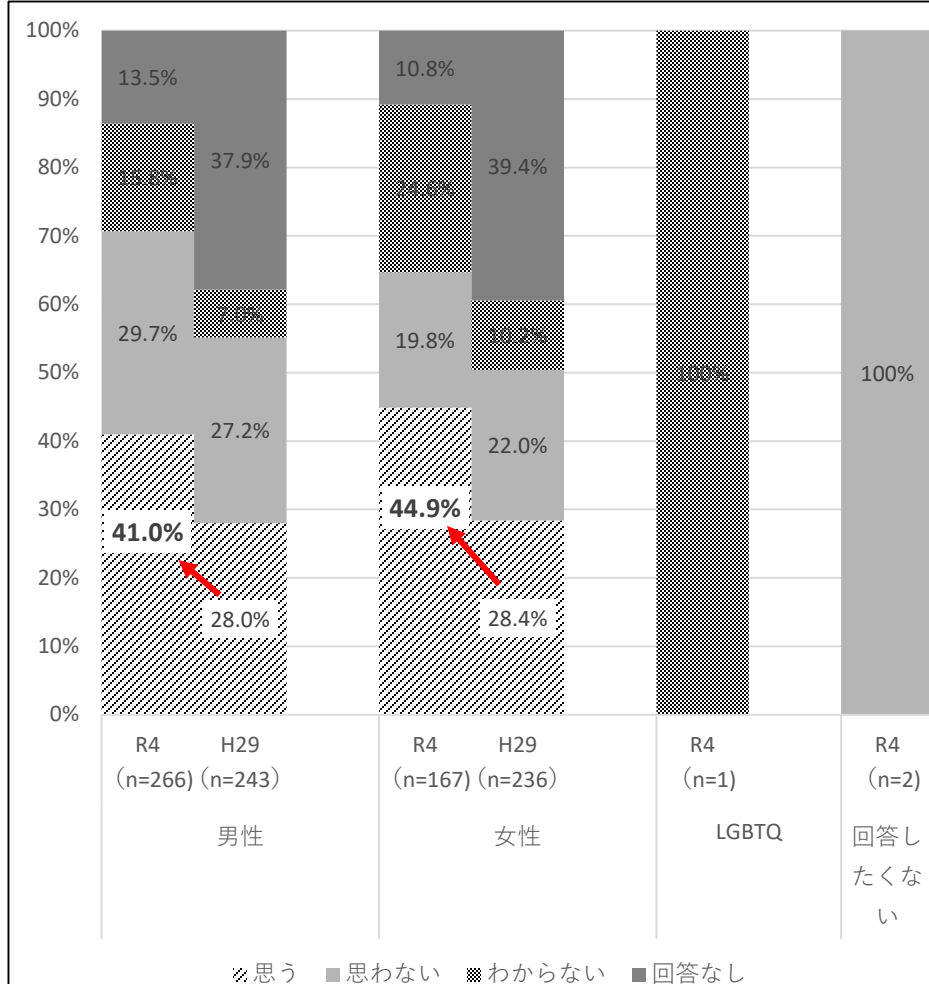
「その他」（自由記述）の回答

- ・がん家系でないから。
- ・がんであった場合、治療するお金がないから。
- ・混んでいたから。
- ・まだいいかなと思う。
- ・まだ年齢が若いから。
- ・健康状態に自信があるわけではないが、気にならない。
- ・検診に子供をつれていけないため。
- ・小さい子どもがいるから。
- ・副作用が心配だったから。
- ・前向きに全てを受け入れる覚悟をしているから。

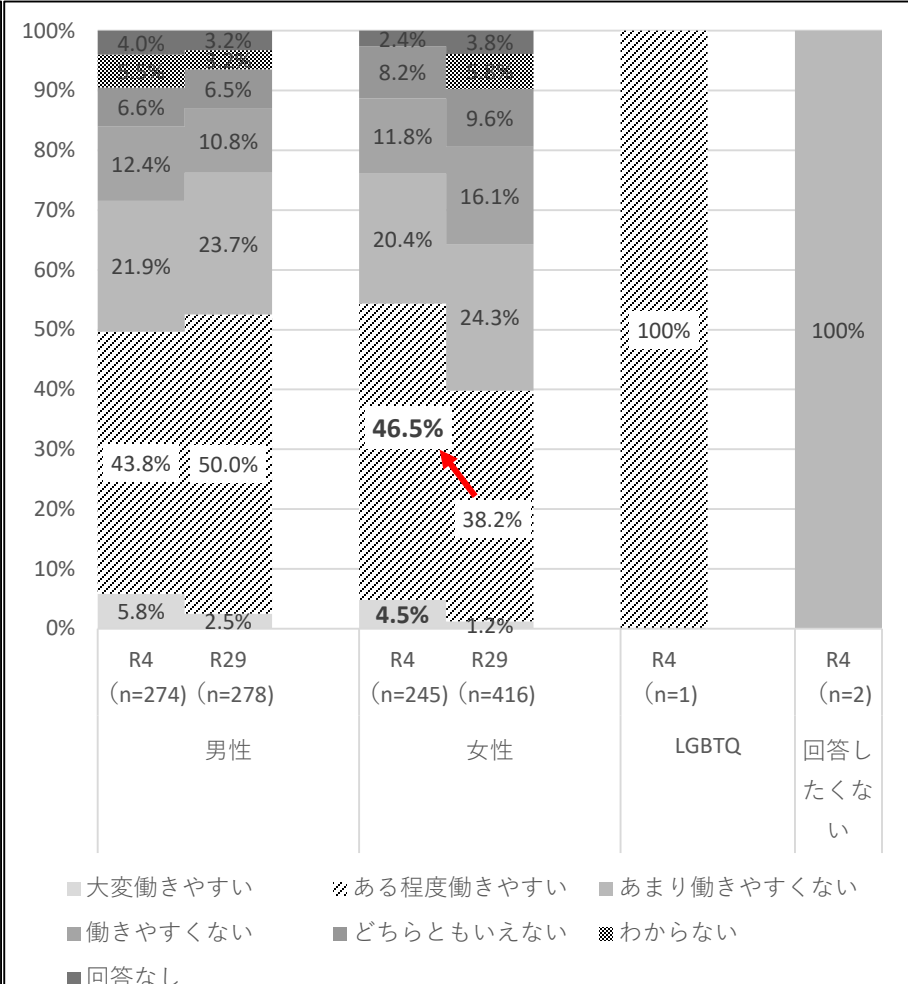
5. 就業・働きやすさ

職場での待遇については、男女ともに「平等」と回答する割合が大幅に増加。
女性が働きやすい状況かを問う質問では、女性の「働きやすい」「ある程度」が増加し、改善傾向にある。

問14 (就労者) 職場で男性と女性の待遇が平等だと思いますか。



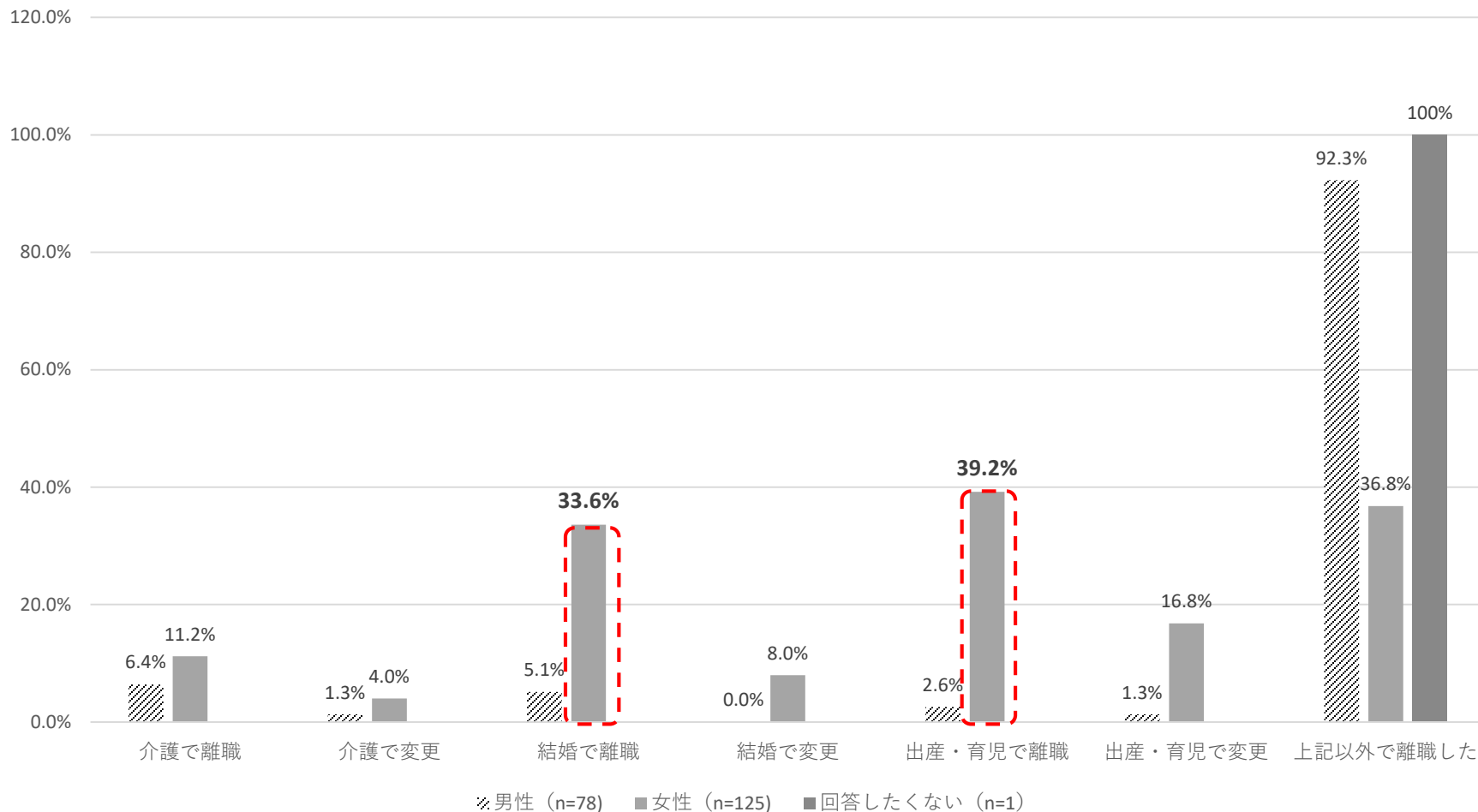
問16 現在の社会は女性が働きやすい状況にあると思いますか。



5. 就業・働きやすさ

離職や就業形態を変更した経験がある人のうち、女性の4割が「出産・育児が理由」と回答。「結婚」と回答した女性も3割で、男性と比較して開きがある結果に。ライフイベントをきっかけに生活スタイルの変更を求められるのは女性であることがわかる。

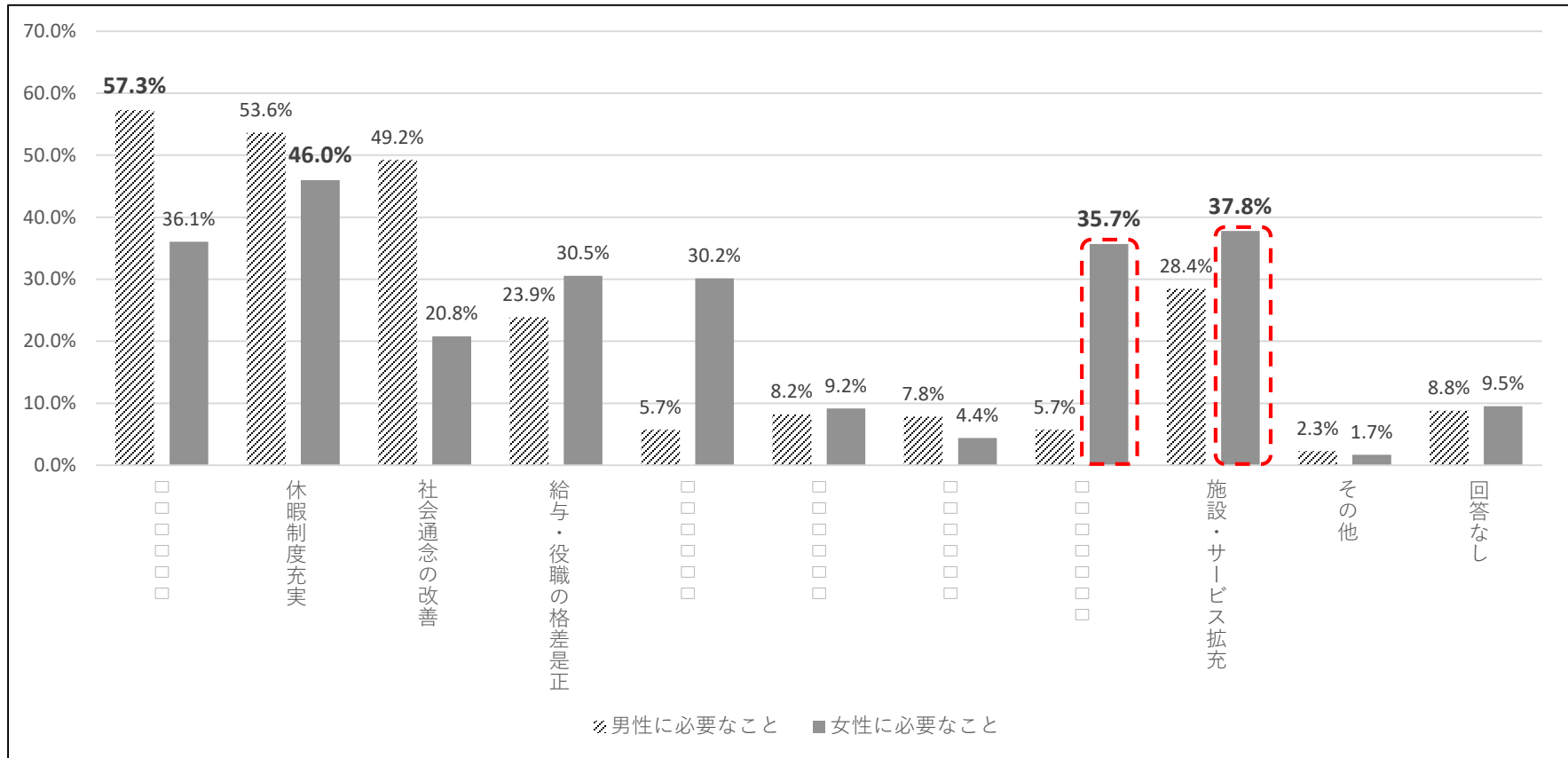
問18 (離職・就業形態変更経験のある方) 離職理由を選んでください。(複数選択)



5. 就業・働きやすさ

男性は「労働時間の短縮」、女性は「休暇制度の充実」がトップに。女性は「保育や介護施設・サービスの充実」や「退職後の再就職支援」のニーズも高い。前頁で触れたとおり、生活スタイルの変更を強いられることがあるため、その支援策が求められている。

問17 男女が共に育児・介護と仕事を両立するために必要だと思うことはなんですか。（複数選択）



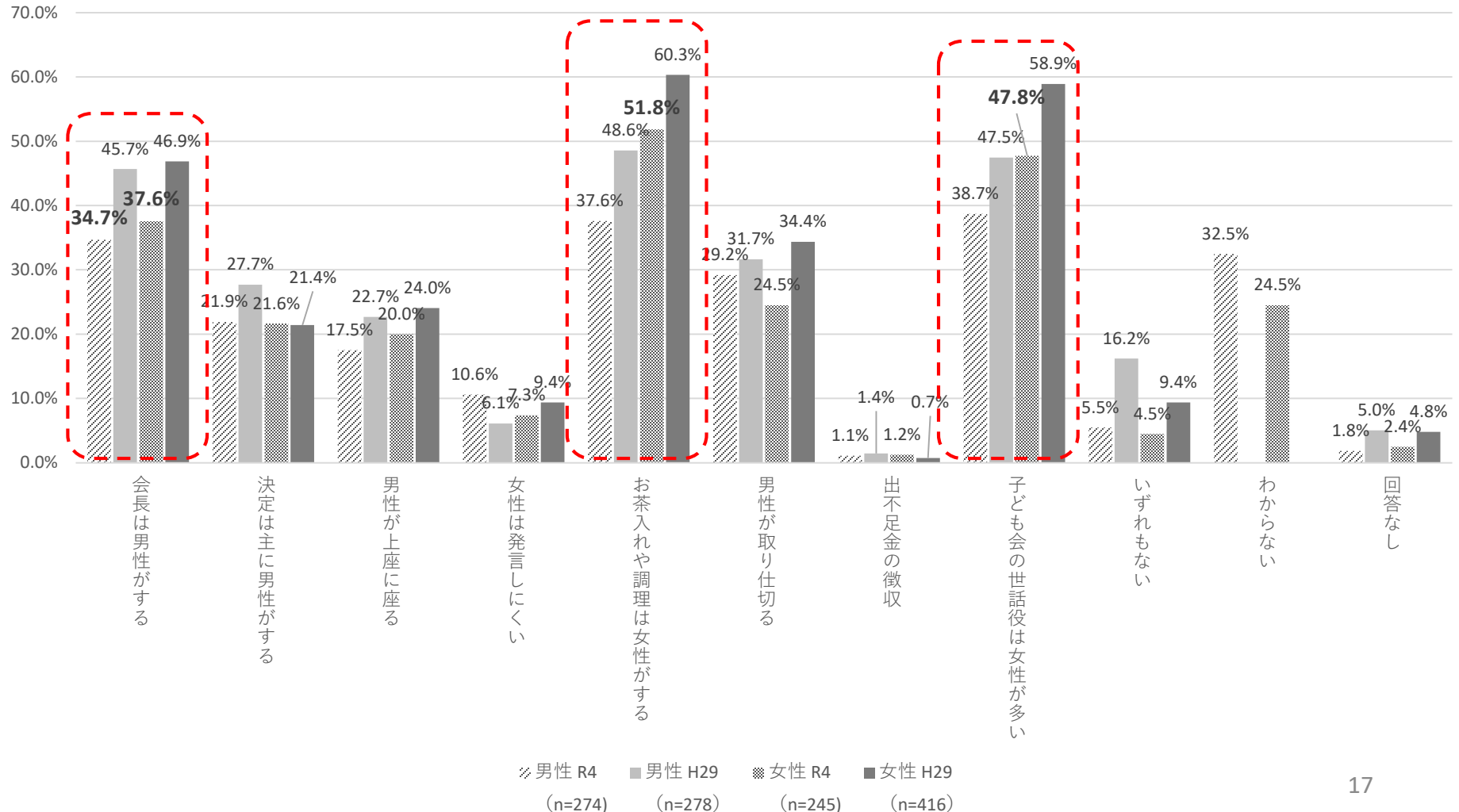
問40 自由記入欄から一部抜粋

出産を機にやむをえず離職し、再度就職を考えていますが保育園が決まっておらず...仕事を探せない状態です。
 保育園の数が増えれば、様々な女性によりチャンスが広がると思っています。

6. 地域社会について

地域での性別役割について、「会長は男性」は男女ともに改善傾向にある。
「お茶入れや調理」「子ども会の世話役」についても改善傾向にはあるものの、女性が担っていると回答した人の割合は高い。

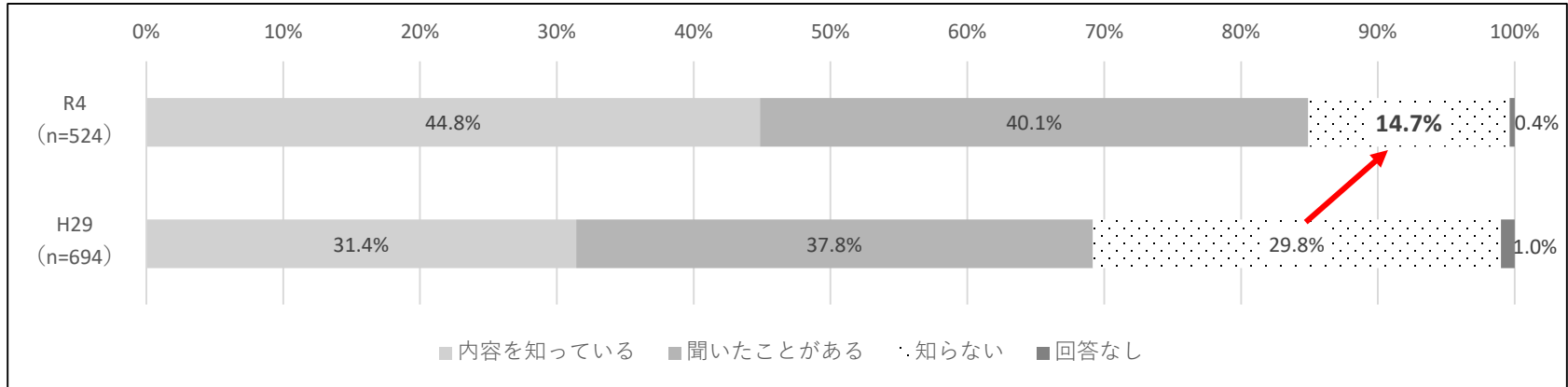
問22 地域で次のようなことはありますか。（複数選択）



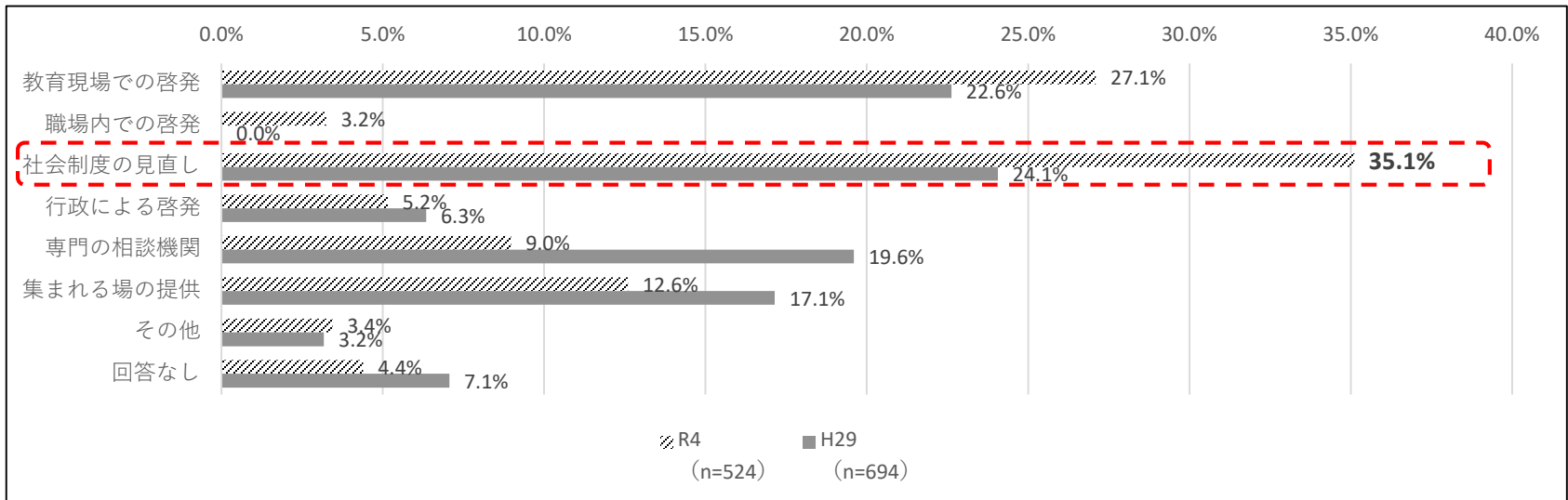
7. 性的マイノリティ（LGBTQ）

「LGBTQ」の認知度は上昇。「知らない」と回答したのは約1割。
理解するための取り組みには、約4割が「社会制度の見直し」と回答。

問28 LGBTQという言葉を知っていますか。



問31 LGBTQを理解するためにどのような取り組みが必要だと考えますか。

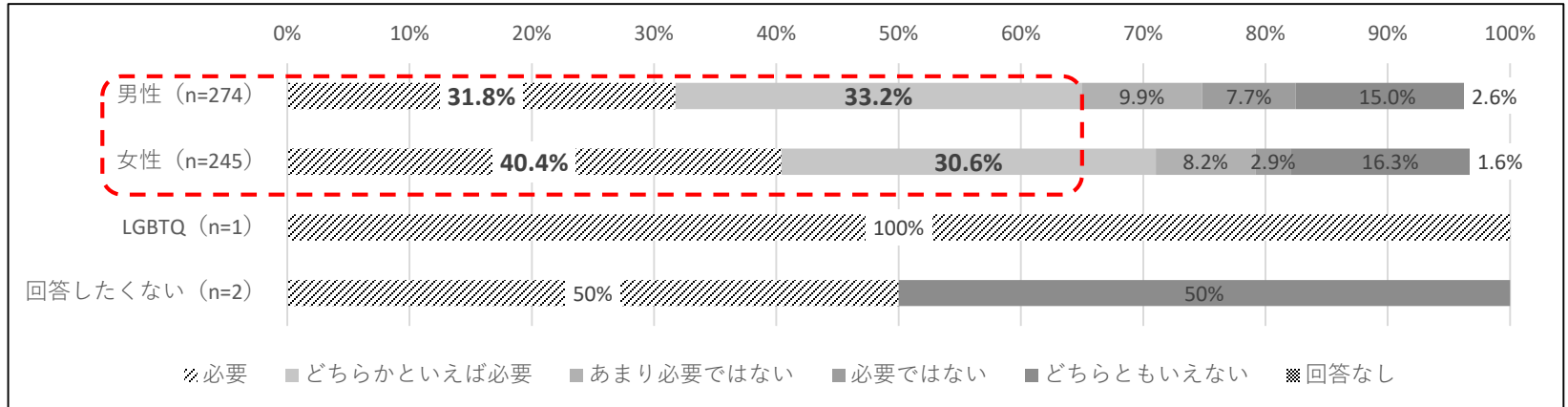


7. 性的マイノリティ（LGBTQ）

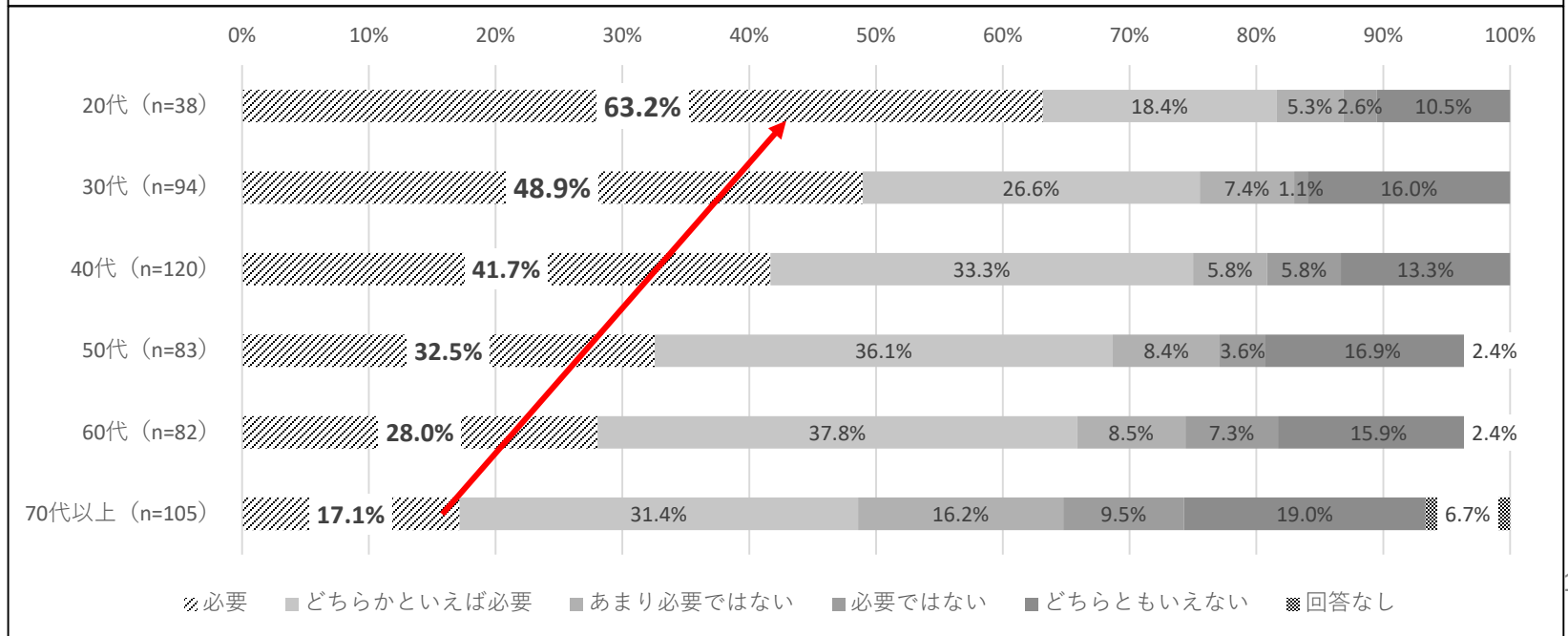
パートナーシップ制度の導入について、男女ともに約6割が「必要」「どちらかといえば必要」と回答。
年代別では、若い世代のほうが「必要」と回答する割合が高い傾向に。

問29 「パートナーシップ制度」の導入について、あなたの考えを教えてください。

(性別)



(年代別)

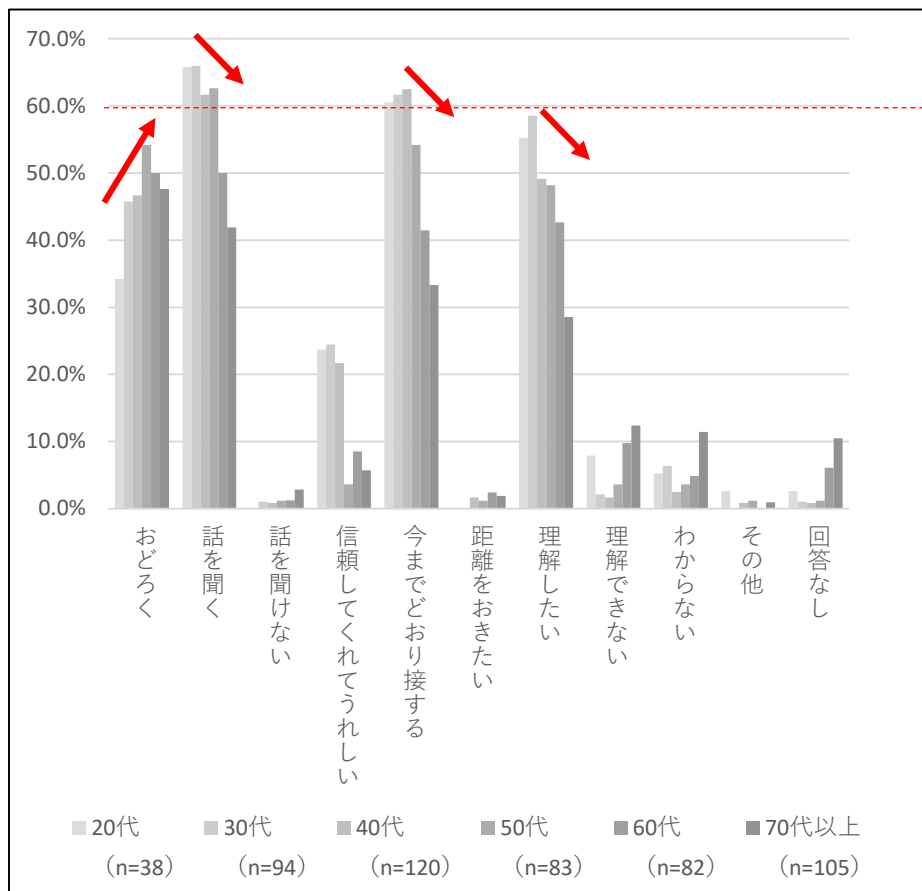


7. 性的マイノリティ（LGBTQ）

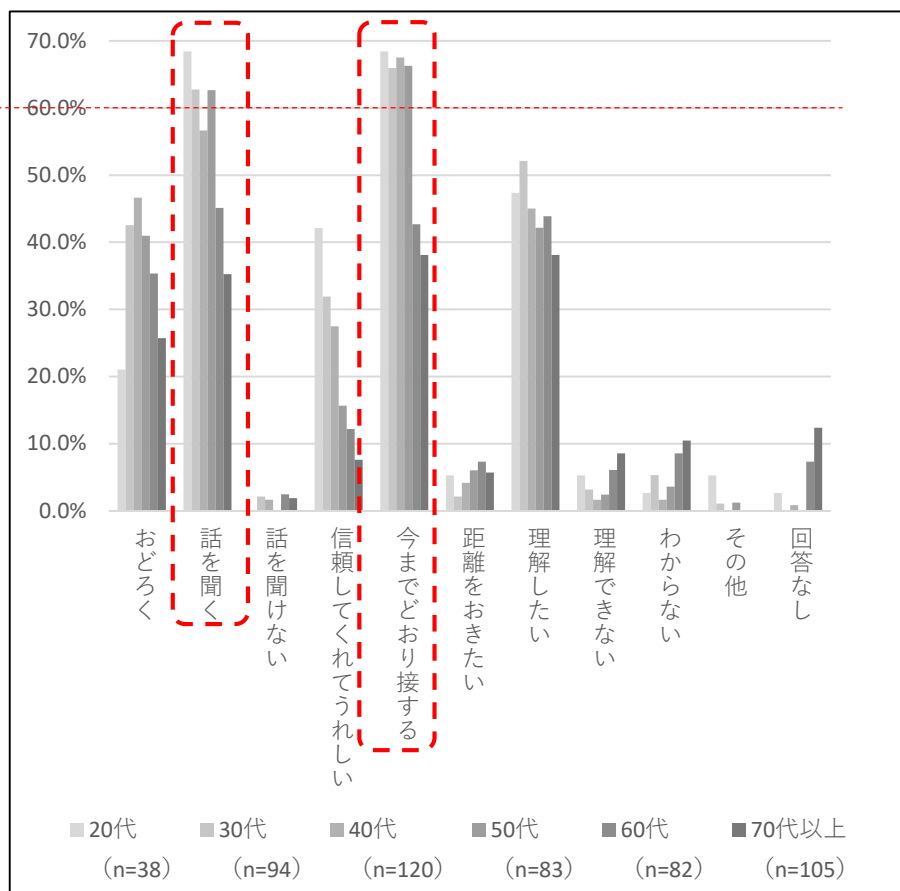
家族からカミングアウトされた場合の心境は、年代が高くなるにつれて「おどろく」の割合が高くなり、「話を聞く」「今までどおり接する」などのポジティブなリアクションは低下する。家族以外の場合には、「話を聞く」「今まで通り接する」と回答する人の割合が家族のときよりも高くなる。

問30 周りの人から性的マイノリティと打ち明けられた場合のあなたの気持ちはどれですか。（複数選択）

（家族から打ち明けられた場合）



（友人、知人から打ち明けられた場合）

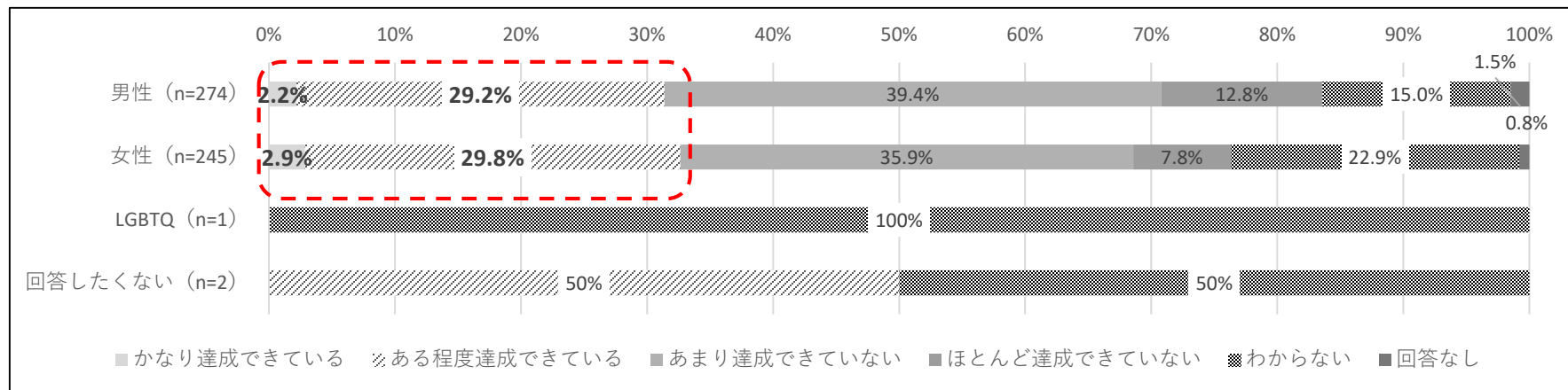


8. 男女共同参画社会実現に向けて

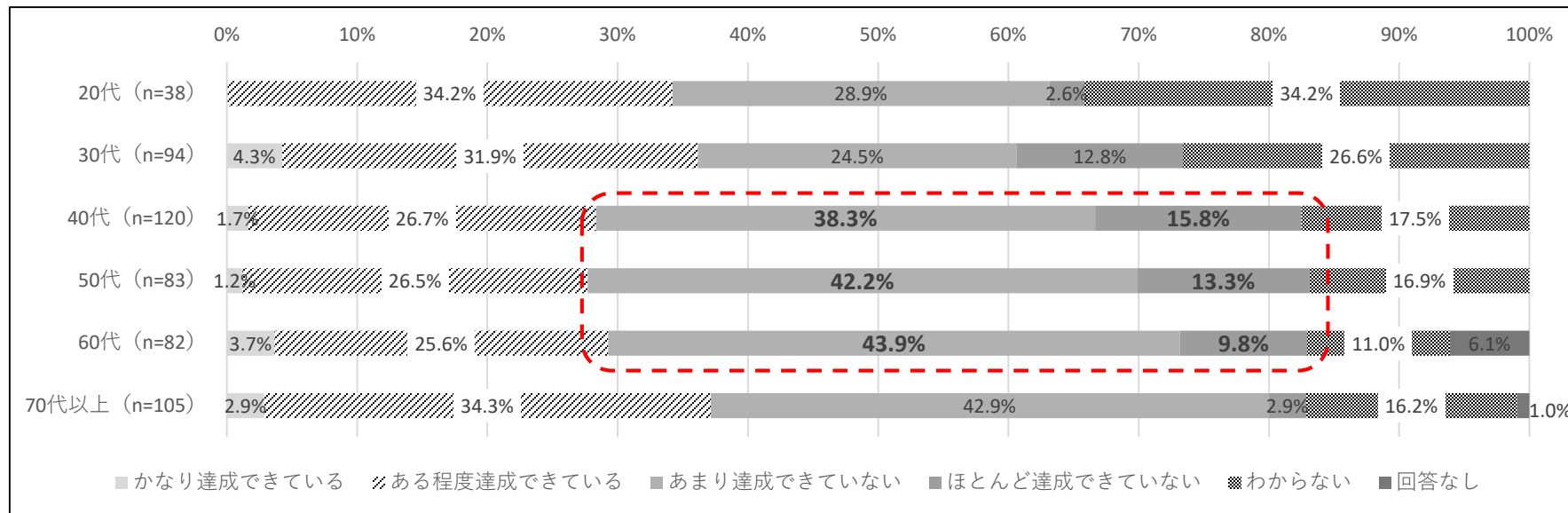
男女共同参画社会の達成度合いについて、男女ともに約3割の人が「かなり／ある程度達成できている」と回答。年代別では、40～60代の5割が「あまり／ほとんど達成できていない」と回答している。

問39 現在の男女共同参画社会達成度合いはどの程度だと思いますか。

(性別)



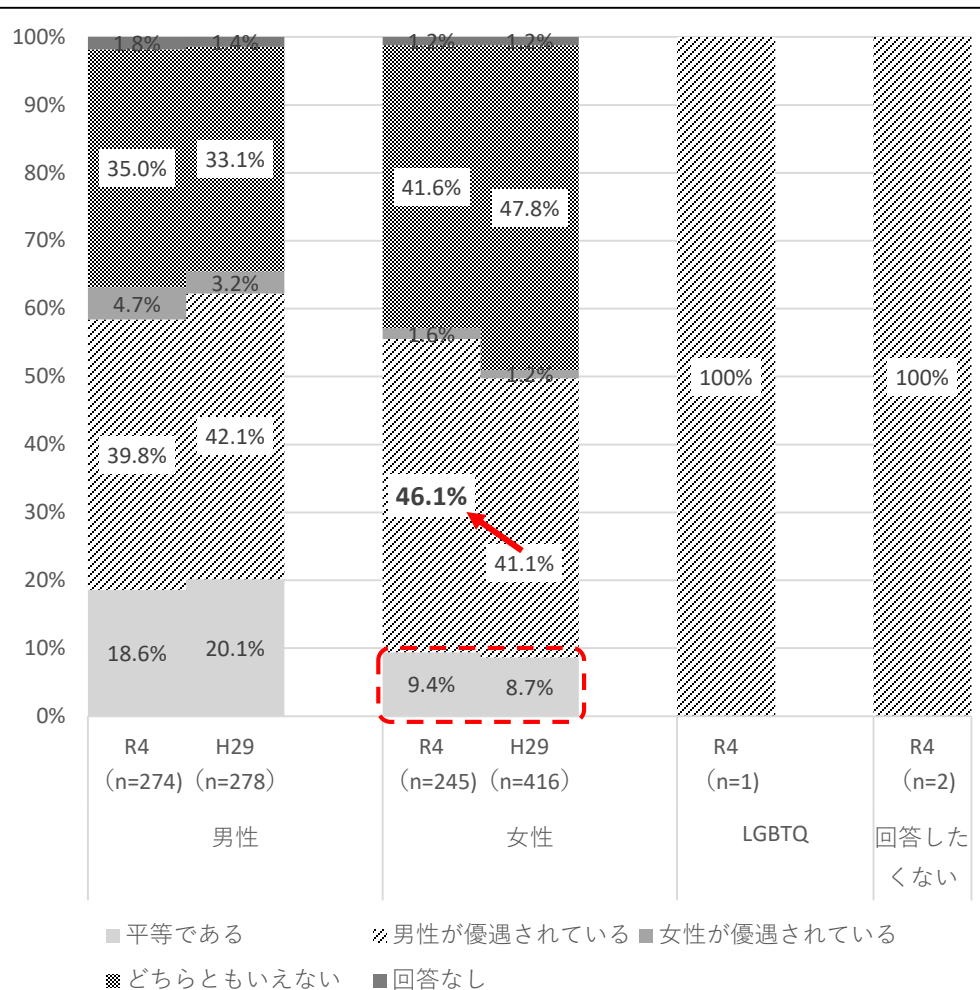
(年代別)



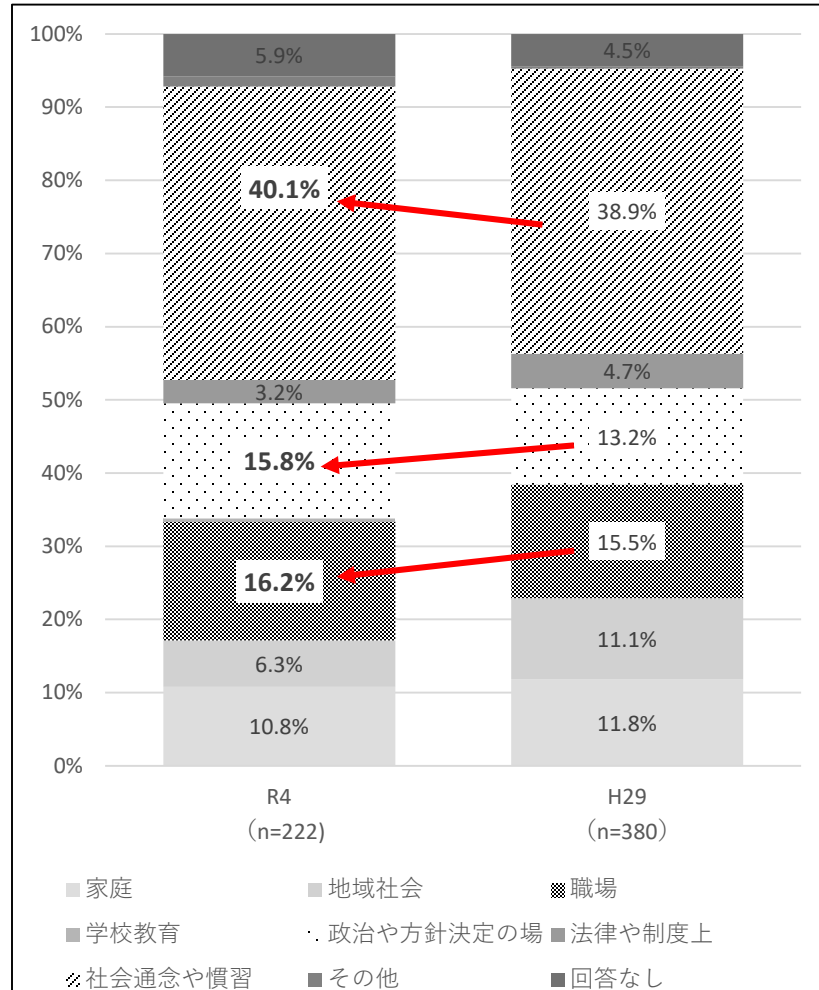
8. 男女共同参画社会実現に向けて

男女の地位について、「平等」の回答割合は女性で1割に満たない結果に。「男性が優遇されている」と回答した割合も増加した。地位の不平等がある分野は「社会通念」「職場」「政治や方針決定の場」が上位に。これらは前回調査と比較してもポイントが増加している。

問34 男女の地位が平等になっていると思いますか。



問35 (問34で不平等と回答した女性)
地位の不平等があるのはどの分野だと思いますか。



8. 男女共同参画社会実現に向けて

実現に向けて特に必要なことは、男女共通で「男性の家事育児への参画」がトップ。女性の2・3位は育児や介護サービス施設の充実。女性は家庭における役割負担減を求めている。一方、男性の2位は「制度の見直し」。家庭への参画のために必要な職場等での環境改善を求めていると推測される。

問38 男女共同参画社会実現のために特に必要だと思うことはなんですか。（複数選択）

